

オフグリッド型トレーラーハウスによる

能登復興支援プロジェクト

ご興味のある企業様
をご紹介します

竹中工務店のトレーラーハウス活用新会社<オフグリッドフィールド>が提案

**地域の未来を見据えた持続可能な復興モデル
企業版ふるさと納税（物納）による能登復興支援**

オフグリッド型トレーラーハウスを能登エリアへ

現地の拠点として、オフグリッドハブ能登の開設

インフラに頼らないオフグリッド型トレーラーハウス

自立電源
(再エネ)

空気から
水の生成

トイレ水
の再利用

廃棄物と熱
の再利用



搭載

オフグリッド型
モバイルハウス
ー本軸トレーラータイプー



オフグリッド型
宿泊トレーラーハウス



オフグリッドハブ能登イメージ（本イメージ図はオフグリッドハブ小田原の完成イメージです）

Produced by



TAKENAKA

× ROCO
ART FACTORY

建設会社とトレーラーハウスビルダーによる
“まちづくりモビリティカンパニー”

OGF
OFF-GRID FIELD



ホームページ
<https://offgrid.jp/>

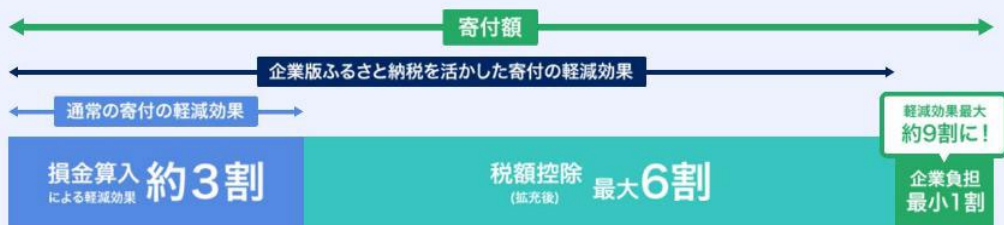
企業版ふるさと納税（物納）でご支援を！

企業メリット

- ① 企業ロゴ表示OK
- ② 企業イメージ向上
- ③ 自治体との関係強化

企業版ふるさと納税（物納）とは？

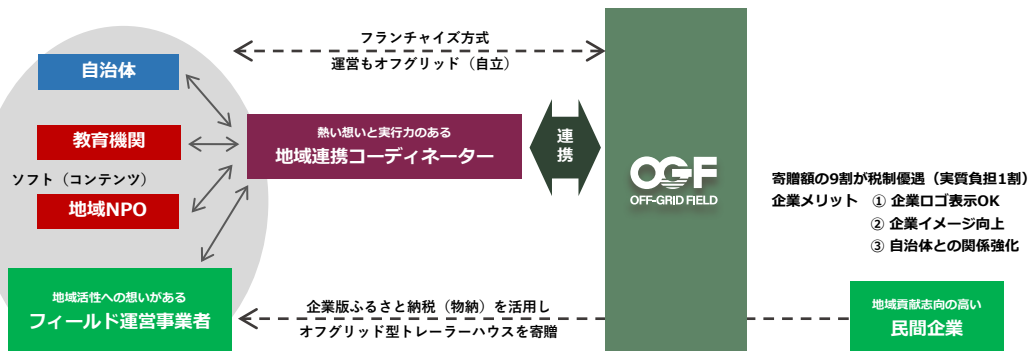
寄贈額の9割が税制優遇（実質負担1割）。2022年に物納制度もスタート
自治体からは防災用品、教育、食品などに高いニーズ。自治体との個別交渉OK



(例) 1,000万円の寄附を行うと、法人関係税において最大900万円の税が軽減(実質負担は100万円で1割)

収益性と社会貢献を両立する持続可能なオフグリッドハブのビジネスモデル

オフグリッドハブ〇〇



- フィールドは、遊休地や既存公園等を活用（イニシャルコストを大幅低減）
- 企業や学校、大学等のフィールド研修・防災合宿等による宿泊型トレーラーハウスによる収益
- 災害時の復旧拠点・避難所活用

能登エリアのニーズ（一部）

宿泊用中心に、100台のトレーラーハウスニーズがあります



輪島市

- ①宿泊（短期職員） 15台（30名分）
- ②事務（NPOカン） 2台（Eバイルバス）
- ③宿泊（高校生） 15台（30名分）
- ④倉庫（輪島塗） 6台（Eバイルバス）

能登町

- ①宿泊（観光） 10台（20名分）
- ②事務（管理） 2台（Eバイルバス）

珠洲市

- ①宿泊（建設管理者） 5台（Eバイルバス）

七尾市

- ①倉庫（災害備蓄） 15台（Eバイルバス）
- ②宿泊（合宿向け） 30台（60名分）
- ③その他 5台（Eバイルバス）

* 2025年6月ヒアリング結果

オフグリッドフィールド独自提案

石川県の県木「能登ヒバ（アテ材）」を活用した“木製トレーラー”の制作



能登の林業活性化に貢献していきます

殺菌効果・防腐効果・消臭効果から、建材や工芸品に適しています

林業活性化・CO2削減に貢献する「早成桐」の植樹

「早成桐」とは？

「桐」が突然変異し、従来より早く成長する品種

CO₂吸収：スギの3倍

低価格化：育つ速度がスギの4倍

超軽量：木材密度が松の約半分

防火性能：桐タンスに着物は燃えにくい

耐水性：湿気による膨張収縮が少ない



能登で活動中の各種団体との連携



珠州市“接続型オフグリッド（班自給自足）”の取組み



“ノーボ能登（小型重機免許取得可能）”が運営開始

「オフグリッドハブ小田原」でも「ノーボ」と連携予定